

🇺🇸 ~ 1917 ~ 🇺🇸

西部戦線異状なし

ALL QUIET ON THE WESTERN FRONT

映画で考える 「戦争を美化しない目」

対象：高校生以上

名前

年 組

1 美しい言葉と、戦場の現実

「祖国のために戦え！」——先生の熱い演説に心を動かされ、17歳のパウルは仲間と軍に志願します。けれど、たどり着いた戦場は、**聞かされていた「栄光」とはまったく違う場所**でした。

🇺🇸 **言葉の向こうの「現実」を見る。**

🔑 「異状なし」ってどういう意味？

タイトルの「西部戦線異状なし」は、「特に報告すべきことはない」という軍の報告の言葉です。でも、その「異状なし」の日にも、一人の兵士の命が失われているかもしれません。

※特集第1回『1917』と同じ第一次世界大戦を、今度はドイツ兵の目から見る作品です。

2 プロパガンダを見抜く4つの視点

■ ① 美しい言葉

「英雄」「祖国」「名誉」。気持ちを強く動かす言葉に注意。

■ ② 見せない現実

けが・死・飢えなど、都合の悪いことは語られない。

■ ③ 周りの空気

「みんな行く」「行かないのは臆病者」という雰囲気。

■ ④ 報告の言葉

「異状なし」の裏にも、一人ひとりの現実がある。

3 映画『西部戦線異状なし』とは

あらすじ

1917年のドイツ。17歳のパウルは友人たちと軍に志願し、北フランスの西部戦線に送られます。泥と雨の塹壕、飢え、次々に倒れていく仲間。年上の兵士カットとの友情だけが心の支えです。一方、政治家エルツベルガーは戦争を終わらせるための休戦交渉に向かいます。

原作は1929年の小説

作家レマルクが自分の従軍体験をもとに書いた小説です。のちにナチス政権は、この本を禁じ、焼き捨てました。2022年の映画はアカデミー賞4部門を受賞しています。

見るときの心がまえ

戦場の場面はとても厳しく描かれています。先生が選んだ場面を、「言葉」と「現実」のちがいに注目しながら見ましょう。

4 言葉と現実を比べるワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① パウルたちが志願した理由と、戦場で知った現実を比べよう

② 「周りの空気」に流されそうになった経験はある？

③ 前線の兵士と、交渉の場の大人たち。対比から何を感じた？

④ 美しい言葉にだまされないために、自分にできることは？

5 ふりかえり

戦争を美しく見せる言葉は、_____を見せないことがあると分かりました。これから、強い言葉を聞いたときは、_____を考えたいです。

 「言葉の向こうの『現実』を見る。」

先生・保護者へ：『西部戦線異状なし』（2022年）はNetflixで配信されている作品で、戦闘による死傷の描写が非常に生々しく、長時間続きます。本資料は高校生以上を想定しています。年齢表示は配信サービス上で必ず確認し、上映する場合は場면을厳選してください。授業での利用には、配信サービスの利用規約や教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。

© 2026 FilmEdu AI ／ この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。